



府食第665号

平成29年9月26日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

平成29年度食品健康影響評価技術研究の追加公募における
採択課題（案）について

このことについて、平成29年9月15日に開催した平成29年度研究・調査
企画会議事前・中間評価部会（第4回）における審議の結果、別添のとおり取り
まとめましたので、報告いたします。

(別添)

平成29年度

食品健康影響評価技術研究の追加公募における
採択課題（案）について

平成29年9月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

平成29年度食品健康影響評価技術研究の追加公募における採択課題(案)

受付番号 主任研究者名 (所属機関名)	研究課題名 (研究期間)	研究概要	評点 (20点満点)	評価所見
37 六鹿 元雄 (国立医薬品 食品衛生研究所)	合成樹脂製器具・容器 包装のリスク評価にお ける溶出試験法に関す る研究 (平成29～31年度)	<p>食品用の合成樹脂製器具・容器包装について、厚生労働省においてポジティブリスト制度の導入が検討されている。しかし、ポジティブリスト制度の対象となる物質の具体的なリスク評価方法は示されておらず、早急にリスク評価方法を整備する必要がある。</p> <p>本研究では、米国や欧州連合におけるリスク評価のための溶出試験法等を参考として、合成樹脂製器具・容器包装のリスク評価のため、食品の分類及び定義を行い、長期保存食品、乾燥食品、油脂および脂肪性食品(油性食品)に使用される製品に関する溶出試験法を検討し、リスク評価のための溶出試験法案を作成することを目的とする。</p>	16.1	<p><総括コメント> リスク評価に必要なばく露推定に用いるデータを得ることを目的として、食品用器具・容器包装に用いられる合成樹脂の溶出試験法を開発する研究であり、重要性は高い。</p> <p><個別コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> • ポジティブリスト制度の導入に向けて、食品安全委員会におけるリスク評価手法の確立は急務である。 • 乾燥食品を対象とした試験法を新たに加えるなど、今後のリスク評価の視野に入れるべきものがあることを評価する。 • 日本、米国、欧州で使用されている物質や基準値の全体像を十分把握したうえで、溶出試験の対象物質を選定するよう研究計画を見直すべきである。 • 溶出試験の対象物質に関する情報等研究計画をもう少し詳しく記載すべきである。 • 水での溶出以外のデータも得られることによって、溶出実態の解明にもつながると期待される。 • 実際の溶出データとシミュレーションの比較も検討してほしい。